

平成23年8月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

太平洋高気圧の勢力の変動が大きく、各地域とも暑い時期と涼しい時期がありました。北・東日本では、上旬中頃から中旬中頃にかけては太平洋高気圧に覆われたため晴れて気温が高く、多くの地点で猛暑日となった一方、上旬はじめはオホーツク海高気圧の影響で低温になったほか、中旬終わりから下旬にかけては寒気や本州付近に停滞した前線の影響で高温の日はほとんどなく、気温の変動が大きくなりました。前線や湿った気流の影響により、西日本の日本海側では、月の後半に大雨の降った所があったため月降水量が多かったほか、竜巻などの突風が発生した所もありました。西日本の太平洋側と東日本でも、下旬は前線や湿った気流の影響で大気の状態が不安定になることが多く、各地で大雨が降りました。また、沖縄・奄美の一部では、上旬中頃に台風第9号が沖縄本島のすぐ西をゆっくり北西進したため大雨となりました。

月平均気温は、気温の変動が大きくなりましたが、北日本で高く、東・西日本、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本の日本海側で多く、北日本の日本海側、東日本、西日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でしたが、北日本の太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、北日本の日本海側で多く、北日本の太平洋側、東日本、西日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並でしたが、西日本の日本海側では少なくなりました。

【8月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は78%と例年値^(注)より1ポイント低く、明後日予報も例年値より1ポイント低い74%となりました。各地方の適中率では、明日予報は沖縄地方で例年値より5ポイント高くなりましたが、その他は例年値より低い地方が多く、九州南部地方では10ポイント低くなりました。明後日予報は沖縄地方で6ポイント高くなりましたが、中国地方、四国地方、九州北部地方及び九州南部地方では4～6ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は沖縄地方を除き例年値より小さく、近畿地方では例年値に比べ0.4℃小さくなりました。全国平均は例年値より0.2℃小さい1.5℃でした。最低気温の予報誤差は例年値程度か例年値より小さく、全国平均は例年値より0.2℃小さい1.0℃でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると低気圧と高気圧が交互に通過するようになります。低気圧が通過するときには曇りや雨となり、高気圧に覆われると晴れとなって、天気は数日の周期で変わるようになります。また、帯状の高気圧により晴れの日が続くこともあって、さわやかな秋晴れの日が多くなります。しかし、低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報により大雨や強風などが予想される場合は、常に最新の気象情報や注意報、警報などを利用して十分に留意して下さい。